



「春」 福沢源平光美 (T・ベテ)



「春」



「夏」



「夏」



## 京都の伝統美とクラシック・バレエが共鳴した美しい舞台、京都バレエ団の『京の四季』と『屏風』

ワールドレポート / 大阪・冬の部 2018/12/10 掲載

◇ バレエ

ツイート

シェア

ワールドレポート / 京都

関口龍一 Text by Koichi Sekiguchi

### 京都バレエ団

『京の四季』『屏風』有馬純子、安達賢治、原精成・演出・振付、有馬スワ子、新橋成・演出・振付・指揮

京都バレエ団による『京の四季』『屏風』公演が、ロームシアター京都のメインホールで行われた。『京の四季』は「春」は宮城道雄作曲の「春の雫」、「夏」は大谷祥子作曲の「源氏物語より夏」、「秋」も大谷祥子作曲の新曲「秋の涙」、「冬」は沢井忠雄作曲の「百花譜より冬」という、大谷祥子による纏乱たる華と情愔の調へにのせて謳われる(春/大谷祥子、立湯明美、菊池悠生、横笛/藤倉真生)。幕張では元治功の華道家、小池美由希と青木運果が、季節の花をライブで活け続けている。そしてダンサーたちは、カラフルなチュチュと着物をアレンジした衣装でフォーメーションを作り、絶妙の配色を練めかしながらたおやかなラインを描く。これは京都に息づく伝統美とバレエの、奇跡ともいえるコラボレーションである。日本の美の精髓を知る京都人でなければ、これはつくれない、と思わせた美しさが舞台に輝いた。四季のうつろいこそが、人間が情感とともに生きていく必須の情景である。そのことを観客に体験させてくれた舞台だった。

## 2018.12.「京の四季」と「屏風」出演

https://www.chacott-jp.com/news/worldreport/osaka/detail010471.html